

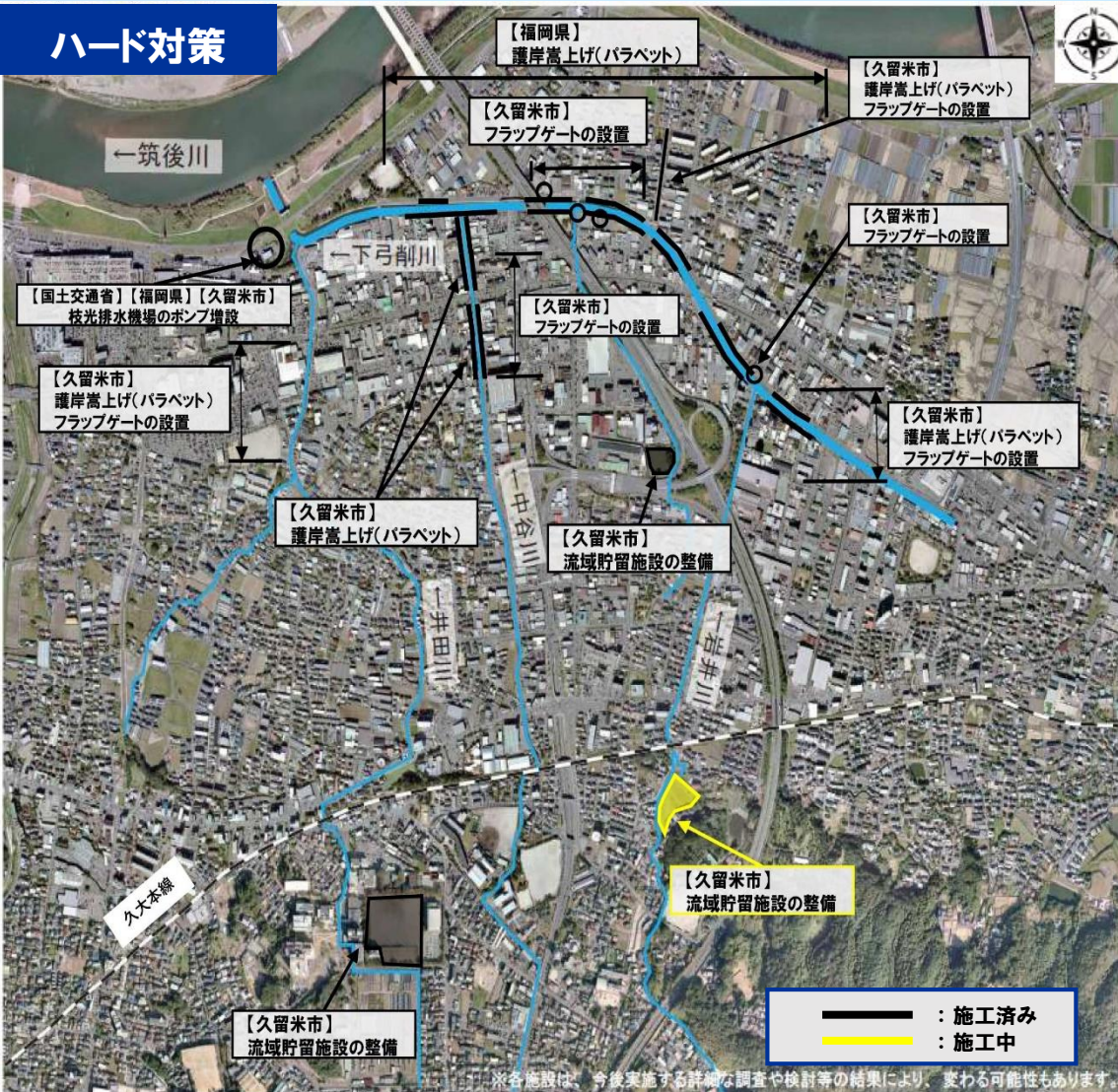
下弓削川・江川総合内水対策計画

R6.4月時点

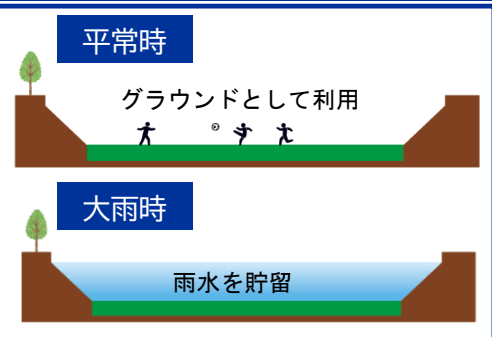
平成30年7月の大雨により多くの家屋等が浸水する被害が発生した下弓削川・江川流域において、国・県・市が連携して、令和2年3月に「下弓削川・江川総合内水対策計画」を策定し、令和2年度より対策事業に取り組んでいます。

また、ハード対策のほかにソフト対策として、水門・樋門の開閉状況をHPで公表、ウェブ版ハザードマップの導入等を実施しています。

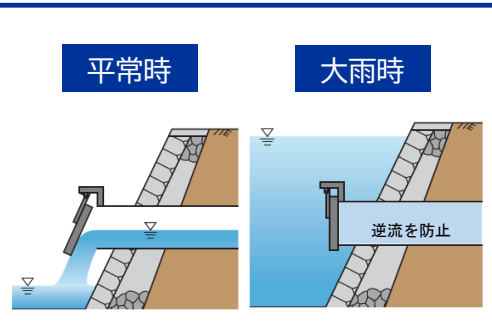
ハード対策



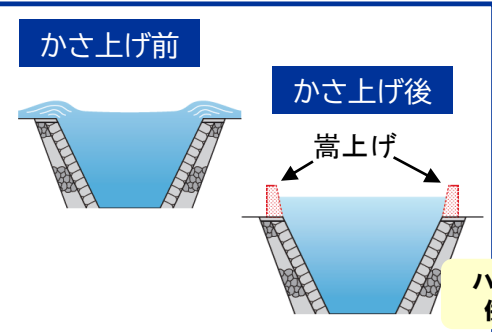
久留米市が実施する主なハード対策



【貯留施設】
 平常時は、グラウンドとして利用します。
 大雨時は、河川を流れている雨水をグラウンド等へ貯留して、流れる水の量を軽減します。貯留した雨水は、河川の水位が下がってから放流します。



【フラップゲート(逆流防止扉)】
 平常時は、水の流れて扉が開き、河川へ排水します。
 大雨時に河川の水位が上昇すると、扉が閉まり、河川からの逆流を防止します。



【護岸かさ上げ】
 護岸を高くして河川の水位が上がることに備える施設です。

ハード・ソフト対策を併せて実施します。

